

明治二十九年六月十五日、午後七時二始り、同十六日ニ至り激震三十一回、被害ノ実況、

岩手県、釜石ハ死亡ノ五千人計流失、

同 盛町附近ハ死亡四千人、ノ流失家二千余戸、

同 大槌町附近ハ死亡六百人、ノ流失家五百余戸、

同 山田町大半流失、其附近ノ合テ流失三百余戸、ノ死者千人、

宮城県ハ死亡三千百三名、ノ傷者五百五十、流失及ヒノ破損ノ家屋ハ九百七十三、

同 本吉郡歌津村ノ如キハ戸數ノ六百一ハ家屋悉ク流失、ノ死者六百余、負傷者二百、

同、唐桑村ハ戸數七百七十ノ内、流失二百六十、死者ノ八百二十三人ナリ、

青森県ハ三戸部<sup>（三戸部）</sup>五十余、ノ上北郡ハ二百五十余戸ノ流失、死者不詳、

同 宮子町ハ流失家屋ノ不詳、死者七十余、

右ニ付、三県下到处、ノ電信不通ト相成ル、ノ陸中ノ国、海岸ニハ外国ノ汽船三隻モ陸上ヘ打上ケノタリ、各国ノ公使ヨリハ本国ヘノ向ケ、不殘電報相成ル、ノ岩手県雄勝地方ヘ使役ノ重罪人二百四十名計ハ百名程ハノ死亡ス、并ニ出役人員モ多くノ殉<sup>（受）</sup>難スルアリ、又同県湊町ノ辺ハ帆船并ニ大小百余隻ノ漁船ハ舟ノ鼻先ヲ家屋ノ内ヘノ付キ込ミ、羽目板ヲ破リ居ル等、誠ニノ言語<sup>（同）</sup>断ノ大變ナリ、尚此ノ日ハ五月ノ節句ノ当日ナレハ各村各町ハ酒宴ノ催シ盛シナルニ当リ死人モ殊ノ外夥シト云、

因中○印ハ被害ノ尤甚キ処ナリ、ノ黒線ハ鐵道線ナリ、又再三の報知ニノヨレハ、岩手県ノ分ハ死者二万二千八百八十ノ六人、負傷千二百四十四人ナリ、青森県死者ノ三百八人、負傷百四十人ナリ、家屋ノ流亡及破壞ノ四百八十ナリ、宮城県ハ未タ詳ナラス、  
附タリ、岩手県ニテハ被害ノノ当日大火モアリ、戸數詳ナラスト  
ノ雖モ水火両難恰モ人間世界ノノ有様ニテハナク海嘯ノ高キケ所ハノ五丈余ニテ押寄せタル景況ノ  
実可驚ノ次第ナリケリ